

## 目次

[今週号は 2023 年 3 月 17 日時点の情報を基に作成しています]

マクロ経済コラム：欧米で銀行の信用不安が台頭	1
日本株銘柄情報：丸一鋼管 (5463)	2
日本株銘柄情報：三井ハイテック (6966)	3

## 欧米で銀行の信用不安が台頭

横山 泰史

3月10日に米国を拠点とするSVB（シリコン・バレー・銀行）が経営破綻しました。背景には、米国における急速な金利の上昇があります。破綻によってSVBは事業を停止、FDIC（米連邦預金保険公社）の管理下となりました。米当局からはSVBの預金者は預金が保護されるとの声明が出されたことにより、米国の金融機能がシステミックリスクに陥ることを防ぐ意思が伝わりました。

## 金利は急低下

SVBの破綻に対して、マーケットは金利の低下で反応しました。破綻の翌週となった月曜日（13日）の米国市場では、米国債の金利は軒並み低下しましたが、政策金利（FFレート）の影響を受け易い米2年国債の利回りは破綻前の週には5%を超えていた日もあったのですが、13日には4%を割り込みました。日本の国内金利も米国の金利低下に呼応するかのように急低下しまして、9日の木曜日には0.5%であった日本の10年国債利回りは0.26%にまで低下しました。

SVBの破綻によって、金利状況は昨年12月の日銀の金融政策変更（イールド・カーブ・コントロールで誘導している10年国債利回りの上限を0.25%程度から0.5%程度に引き上げ）前にほぼ戻るような状況となり、金利引き上げの思惑で買われていた銀行株が売られる要因となりました。

## 金利引き上げに慎重な見方が台頭

そして、15日には欧州にてクレディスイスの信用不安が高まり、株価は急落しました。きっかけは、大株主であるサウジ国営銀行の議長がクレディスイスへの追加支援を明確に否定したことです。当日の欧州市場では他の銀行株も大きく売られました。一方で、15日に発表された2月の米小売り、2月の米PPIともに市場予想を下回る内容で、米国のインフレ懸念が一旦は後退した状況です。このため、米国では急速に政策金利（FFレート）の引き上げに対して慎重な見方が台頭してきました。とはいえ、足元では不透明感が高まったグローバル金融市場ですが、今回の問題はまだ個別銀行の問題で、2008年のリーマンショックの時のようにシステミックリスクにまで波及する可能性はまだ低いと考えています。

# 丸一鋼管 (5463)

横山泰史

## 株価指標

株価 (2023/3/17)	2,870 円
売買単位	100株
市場	東証プライム
時価総額	2,410 億円

## 会社概要

丸一鋼管は、国内溶接鋼管業界で高いシェアを誇る鋼管業界のリーディングカンパニーです。2022.3 期の決算では、売上高が 2242 億円、営業利益が 362 億円でした。時価総額は 2410 億円 (3 月 17 日現在) と、会社の規模としては中堅の鉄鋼メーカーとなります。国内の鋼管市場が伸び悩むなか、海外にも積極的に事業を展開していきまして、グローバルネットワークとしては中国、インド、インドネシア、ベトナム、フィリピンといったアジアや米国、メキシコがあります (2022.3 期現在)。

## 強みにシームレスステンレス鋼管

強みの一つにシームレスステンレス鋼管があります。そのなかでも半導体製造設備に使用される BA 管に強く、需要が拡大しています。半導体を生産する工場では、ガスが使用されていますが、BA 管は安全にガスが通過する通り道として、半導体生産工場や半導体製造装置などで欠かせない存在となっています。シームレスステンレス鋼管の事業展開としては、神戸製鋼所の 100% 連結子会社を買収しています。半導体の新工場が建設されている米テキサス州では半導体用 BA 管製造工場の設立を発表していますが、新工場の稼働は 2024 年からが予定されています。

## <業績の推移:連結>

決算期	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
2021/03	161,138	18,332	20,587	13,857	167.9	72.5
2022/03	224,218	36,276	38,458	27,760	340.8	91.0
2023/3予	274,100	31,400	34,600	21,900	274.9	109.0

単位:百万円 (1株利益、1株配当は円) 予想は会社予想によります。

## <投資指標:連結>

今期予想PER	10.4 倍
PBR	0.7 倍
予想配当利回り	3.7 %

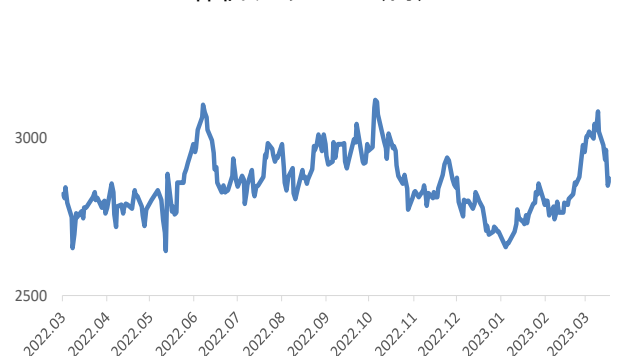
## セグメント別

セグメント別では、売上高については日本が 1361 億円、北米が 486 億円、アジアが 394 億円、営業利益は日本が 215 億円、北米が 112 億円、アジアが 32 億円、調整額が 3 億円となっています (2022.3 期実績)。日本以外の北米、アジアといった地域からの収益貢献が大きいことが分かります。

## 2023 年 3 月期の業績予想

2023.3 期通期の会社予想では、売上高が前期比 +22.2% の 2741 億円、営業利益が同 ▼13.4% の 314 億円となっています。原料の仕入れと製品の販売時期にタイムラグがあるために、マージンは鉄鋼市況が軟調な際は製品価格の値下がりによって縮小、活況な際は値上がりによって拡大する傾向にあります。昨年は年後半にかけて鉄鋼市況は軟調に推移したことから、米国、アジアなど海外でマージンが縮小して、今期の営業利益は減益となる予想となっています。来期は自動車生産の回復などによりマージンの改善に期待したいところです。

3500  
株値チャート (円)



出所: Quick よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

# 三井ハイテック (6966)

横山 泰史

## 株価指標

株価 (2023/3/17)	7,560 円
売買単位	100株
市場	東証プライム
時価総額	2,983 億円

## 事業概要

三井ハイテックは高度な精密加工技術をコア技術として、プレス用精密金型やモーターコア、リードフレーム、工作機械などの事業を展開している、九州を拠点とするモノ作りの会社です。三井ハイテックの製品は、家電や自動車、工場における産業機械などで使用されています。強みの一つにモーターコアがあります。モーターコアはその名の通り、モーターを構成する中心となる部品の一つで、ローター（回転子）やステータ（固定子）の鉄心部分にあたるものです。材料として電磁鋼板が使用されます。数年前からモーターコアに対する需要はハイブリッド車や EV 向けといった自動車産業や産業機械、家電製品などで拡大していて、売上高の拡大に貢献しています。

## セグメント別

三井ハイテックのセグメントは電機部品事業、電子部品事業、金型・工作機械事業の3つに区分されています。電機部品事業は自動車（EV、ハイブリッド車等）向け駆動・発電用モーターコアなどを製造販売しています。電子部品事業はリードフレームと呼ばれる半導体パッケージの内部配線として使用される薄板の金属などを製造販売しています。金型・工作機械事業は車載向け金型、工場の製造現場にて使用される精密平面研削盤などの製造販売をしています。

## <業績の推移:連結>

決算期	売上高	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
2022/01	139,429	14,959	15,672	11,778	322.2	64.0
2023/01	174,615	22,586	22,669	17,581	480.9	65.0
2024/01 予	205,000	22,600	22,400	16,600	454.1	72.0

単位:百万円 (1株利益、1株配当は円) 予想は会社予想によります。

## <投資指標:連結>

今期予想PER	16.6 倍
PBR	3.4 倍
予想配当利回り	0.9 %

## 2023.1 期の決算概要

2023.1 期通期の決算は、売上高が前期比+25.2%の1746億円、営業利益は同+51.0%の225億円でした。自動車市場の拡大にともなう需要の増加や主要通貨に対する円安が2桁の増収増益に貢献しました。期中の平均為替レートは1ドル132.73円(前期は110.73円)の円安となりまして、営業利益を+52億円押し上げています。セグメント別では、電機部品事業の売上高は前期比+32.7%の1001億円、営業利益は同+0.4%の90億円、電子部品事業の売上高は同+18.4%の700億円、営業利益は同+56.4%の122億円、金型・工作機械事業の売上高は同+10.3%の118億円、営業利益は同+68.7%の12億円でした。

## 中期経営計画

三井ハイテックは中期経営計画（2023.1期～2025.1期）を発表しています。今回、最終年度となる2025.1期の見通しについて、従来予想の売上高2300億円、営業利益300億円から売上高2540億円(+240億円)、営業利益330億円(+30億円)に上方修正しています。



出所: Quick よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

## 金融商品取引法に基づく表示事項

### ■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：アイザワ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 3283 号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）

### 株式の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

### お客様にご負担いただく手数料等について

国内株式は、取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大 1,650 円

コールセンター発注 約定代金が 55 万円以下の場合 1,650 円、

約定代金が 55 万円超 3,000 万円以下の場合 3,300 円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

### 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者または弊社と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

LINE公式アカウント  
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報  
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)



ID : @aizawa